

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りや毎月の定例会に唱和し理念を確認し実践に繋げている。	事業所独自の理念を作成しており、職員も個別目標を設定しているほか、理念の実践ができるよう毎朝の申し送り時、毎月の定例会議時に理念を復唱するようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症まん延の為、交流を自粛していたが、保育園へ雑巾寄贈を継続している。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、近隣の保育園にご利用者が作成した雑巾を寄付したり、保育園からもご利用者へお花を頂くなど、地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回地域向けに新聞を作成し、事業所の特色や活動を紹介している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症まん延のため、入居者の活動を見ていただく事ができないが、市職員・地域の方・家族から参加していただき、活動報告を行い意見や助言を頂き、事業運営に参考にしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長やご家族、民生委員や市の担当者から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例や相談事があった場合に、電話や運営会議の後等で助言を頂いている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただき、アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束を行う場合は、家族に説明を行い同意を得ている。定例会議時、身体拘束について確認している。研修等に参加したり、部内研修で身体拘束をしないケアについて再確認を行っている。	身体拘束を行わない方針が徹底されており、身体拘束に関する検討も定例会議時に行い、身体拘束をしないケアを実践しています。	今年度は身体拘束に関する研修が行われておりませんが、定期的に研修を行い、身体拘束について職員の理解を深められることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、年1回研修を行い意識を付けている。虐待と思われる行動見られた場合注意をしている。	言葉の遣い方についても日頃から気をつけており、虐待防止についても内部研修を行い、職員の理解を深めており、虐待の防止に努めています。	虐待防止に関する研修について、参加できなかった職員の研修内容の理解状況が分かるように復命書等を活用されることを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている方が1名おられる。成年後見制度について学ぶ機会に参加できていない。インターネット等で調べ活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書を確認していただき、本契約時再度説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染症まん延防止で家族会を開催することが出来なかった。 運営会議出席時や電話を掛けた時に、意見や要望を伺っている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時・電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年ではホームの家族会にはご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議に職員の意見を聞き、検討している。 気付きシートを活用し業務改善に活かした取り組みを行っている。	毎月の職員会議の場で職員の意見や要望を確認しています。また、気付きシートを活用し職員からの意見を吸い上げられるようにされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員人事制度を導入し、職員個々の目標を設定し業務に就いている。年2回面談を行い意見や要望を確認し働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的に研修参加や資格取得等積極的に受講出来るよう勤務に配慮している。 部内研修の担当を任せ研修会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症まん延防止のため、他事業所と交流を持つことが出来なかった。 法人にグループホームはらどおりがあり、情報を得ていた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、話やすい雰囲気作りを心掛けて会話をし、本人の思いを聞き出せるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での様子や家族の希望を聞き出し、相談や会話が気軽にできるような関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安や困りごとが何なのかを入居前に確認し、必要なサービスについて本人や家族と共に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に作業を行う時間を作り、共に生活する環境を心掛けている。作業後には労いや感謝の言葉をかけるようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に本人の状況を家族に報告し、連絡を取り、コミュニケーションを図って、本人を支えていけるようにしている。	ご家族に事業所広報を定期的に送付しているほか、ご利用者の生活の様子をまとめた個別のお手紙も居室担当職員より定期的に送付しており、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦で面会制限があり、家族や知人と直接会う機会が持ちにくい、オンライン面会や電話でのやり取りを行い、家族や知人とつながることができるようにしている。	ご家族にもご協力して頂き、オンラインでの面会や面会に来て頂いたり、馴染みの美容室へ出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	本人の考えや個性を踏まえて、入居者同 士が上手くいくよう、共有の場で作業が行え るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、これまでの関係を大切にし て、支援できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常の会話や言動の中からご本人の思い を確認し、情報収集に努めている。ご本人 の立場になって考え、ご家族や職員間で情 報交換している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思 いの把握が行われており、その情報は職員 間で共有され、ケアプランの検討に活かされ ています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人やご家族から聞き取りを行い、これま での情報を得ている。日常生活の中での会 話や行動から、その人らしい生活とはなに かを情報収集するよう努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれま での暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴 や嗜好を確認しています。また、日々のやり とりの中で得られた情報や、ご利用者の状態 の変化を確認し、居室担当職員が定期的に アセスメントシートを見直しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	ご本人の日々の様子を観察し、介護記録や 職員間で情報収集を行い、共有を図ってい る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎日の引継ぎ時や定例会時等で、ご利用 者に関する意見交換や情報共有を行ってい る。サービス担当者会議にご家族に参加し ていただき、出席者の意見を参考にしたケ アプランになるように作成している。	サービス担当者会議にはご家族にも参加し て頂き、モニタリングも定期的に居室担当職 員が行うなど、それぞれの意見を取りまとめ ケアプランを作成しています。	調査時点で介護計画書に日付の誤り がありましたので、今後ミスの無いよ うに改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を介護記録に記入し、日々の変 化に気づき、職員間で情報共有し、意見交 換を行い、実践に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の心身状態やニーズの把握に努め、そのご利用者に必要と思われる支援を職員間で話し合ったり、ご家族に確認、協力していただき、実践に取り入れるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域新聞の発行や運営推進会議で情報発信・情報共有を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診前には入居者の状態を報告している。往診時には、看護師・計画作成担当者が付き添い、診察情報も共有している。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、事業所にも往診に来ていただいています。必要に応じ事業所から情報提供を行い、医師との状況の確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の状態の変化に注意し必要時看護師と連絡を取り指示を受け、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報を提供している。早期退院に向けてワーカーと連絡をとり、退院に向けて情報交換をしている。退院後は主治医と連絡を密に敷いている。全職員に情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話あう機会を設け、ご家族の要望を重視し、主治医と連携を密にし指示を受けている。指示を受けたことを、全職員に周知している。	契約段階でご家族の意向を確認しており、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え支援していきたいと考えています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や外部研修に参加し、事故発生時の対応に備えている。必要時には、看護師からの指導を受けている。	職員にはAEDの使い方・緊急時の初期対応の研修を受けてもらっており、緊急時の対応マニュアルも整備するなど、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定避難訓練を行っている。年に一度は消防所の立ち合いで行っている。水害時の避難訓練も行っている。運営推進会議にて避難場所の確認、その他の情報交換を行っている。	夜間の火災や水害を想定した避難訓練を定期的に行っており、ご利用者別の避難誘導の方法も検討する等、災害時に適切な対応ができるようにされています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声掛けや会話をしている。ご本人様の意志を尊重し対応している。	ご利用者への言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご利用者の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報やホームページへの写真の掲載についても、契約時に確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中ご本人様のやりたいことや、過ごし方など聞きながら一緒に活動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等ご本人様の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合わせて整髪、整容の対応をしている。2、3ヶ月に一度床屋さんに来ていただき希望の方は理髪顔剃りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や季節にあった献立を利用者様に聞き考えている。日々の中でもその方にあった手伝いを職員と一緒にやっている。	ご利用者のできる範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑で野菜をつかっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご利用者と一緒にたけのこ汁や笹寿司作りを行うこともありました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立をメインに利用者様と一緒に収穫した野菜を多く取り入れた食事を提供している。一人ひとりの状態に応じて水分量を記録把握し、提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに声かけし必要に応じて介助している。磨き残しの多い方には再度声かけ確認している。月1回歯科衛生士による指導も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方のかたの排泄リズムを確認しながら出来るだけトイレで排泄できるよう声掛けや誘導を行っている。	ご利用者には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。トイレも各居室にあり、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認している。こまめな水分補給と、散歩や歩行・体操等で身体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望やタイミングを重視し、声掛けにて入浴していただいている。	入浴を嫌がるご利用者にもうまくタイミングを見計らい、入浴していただけるようにしています。また、ホームの浴室での入浴が難しい方には、隣のデイサービスの特殊浴槽での入浴支援も行えるようになっていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々それぞれに合った対応を心掛けている。日中身体を動かし夜間良く眠れるよう支援している。居室の照明や空調にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往歴や処方箋等に目通し、用法用途、副作用等確認している。配薬はダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事をしていただき、感謝を伝えている。各月イベントに、行事食として食べたい物を確認して楽しんでいただいている。昨年(令和2年度)コロナ感染症まん延防止にて、行事が出来なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症まん延防止のため、家族地域の方からの協力が得られなかったり、一緒に買い物に出かける事ができなかった。天候をみて、敷地内のごみ出しや畑に野菜収穫、散歩に出ている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、ご利用者と一緒に季節に合わせたお花見や紫陽花見学などの外出を実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染症まん延防止のため買い物等に出かけられないが、金銭管理ができる方には、お金を所持し、管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じて、事務所内にある電話を使用できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間を毎朝掃除、点検し、環境整備に努めている。利用者の作品を展示したり、敷地散歩の際、花を摘んできて飾ったりして、季節感を出している。	リビングは広々として開放感があり、和室もあり、ソファも置かれてあり、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるスペースとなっています。ホームに飾られている写真や装飾品も季節に合わせてあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	様々なことに配慮して、座席を配置している。また自由に座れるゆったりしたソファや窓辺の椅子等独りになれるスペースもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって居心地よい居室となるよう、馴染みの家具や物、写真等を配置している。行動スペースを確保し、動線を考慮し、安全にも配慮している。	居室には、ベッドやテレビ、机やタンスなどの使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真を飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力量に応じて、安全に自立した生活が送れるよう、居室の位置、家具の配置、座席の位置、個々の歩行器や車椅子の置き場所等に配慮したうえで、できることをしてもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない